

廣瀬 尚昭選手

ラケットボール世界選手権参戦インタビュー

(2008年8月23日)

今回、初めて世界選手権に参戦したわけですがその感想をお願いします。

廣瀬選手

私は普段、あまり緊張しないタイプで全日本選手権やUSオープンに参戦したときも硬くなるような事はなかったのですが、今回はやはり日本代表といった立場で皆さんの期待を背にしたので柄にもなく超緊張しました。大会を通じてUSオープンに行った時に得たものとは違うものをもらった感じです。

その緊張は試合開始後もずっととれなかったのですか？

廣瀬選手

緊張の中で試合が始まりました。個人戦のシングルス第一試合の1セット取られて2セット目をリード(0-6)された時に『負けてしまうのは仕方ないが思いっきり自分らしいプレイをして悔いを残さないようにしよう!』と思ったほどです。

ではその個人戦のシングルス初戦ですがどんな試合だったのでしょうか？

(チリ代表 Pablo Fajre 選手 (11), 8, 0 で勝利)

廣瀬選手

相手はかなり大柄の選手(190cm位)で世界選手権も7回目くらいのベテラン選手でした。序盤は柄にもなく丁寧にロブサーブで攻めて行ったのですが緊張で硬かったのに加えて試合会場のコートの壁のロブ打つ目標が掴めずに結果として甘いサーブを連発、オフザバックになったり、短くなったチャンスボールを決められるといった展開になってしまいました。ラリーでは特に動きが早い選手ではないのですが大きな体を生かしてコート中央でのポジションからカウンターが上手く、私が力んで打ったフルショットが甘くなったのを確実に決めてくるというかんじでした。

1セット先取され、2セット目も0-6になった時点では本当に負けが頭をよぎりました。

ではその苦しい展開からどのようにゲームの流れを変えたのですか？

廣瀬選手

サーブをロブからドライブサーブに変えてみました。体が温まってきた事もあります。ドライブサーブやショットがありえないくらいいい所にきました。ラッキーな点もあったのは否定できません。

2セット目を逆転、タイブレークは0点に抑えていますね。この勝因は何だったのでしょうか？

廣瀬選手

サーブ・ショットともに決まりまくったのがやはり1番ですね。それにスタミナ切れで相手も多少つかれてきていました。良い選手でしたが(自分が)普通の状態でやればストレートで勝てる相手だと思います。

初戦を勝利し、2戦目はどんな感じでしたか？

(エクアドル代表 Fernando Rios 選手 7, 4 で敗戦)

廣瀬選手

若い選手(20代前半)選手でした。ボールのスピードやパワーは凄くはなかったのですがやはり上手いプレイヤーでした。

さて勝ち上がりのトーナメントに敗戦してしまっても、順位決定戦があり色々な選手と試合をする機会に恵まれましたね。ベスト16での敗戦でしたから9位~16位を8名でのトーナメントで争った訳ですがこのトーナメントも順に伺っていきます。

9~16位戦

(ドミニカ代表 Leonel Simo 選手 0, (12), 6 で勝利)

廣瀬選手

ドライブサーブで攻めていって1セット目は0点に抑えて取れたのですがこれで少し油断してしまい2セット目は甘くなったサーブやショットを決められて取られてしまいました。3セット目は気を引き締め、サーブのコースに気を付け、ラリーも丁寧に打ち、取り返し勝利できました。

やはり、各国の代表ですから少しでも気を抜くと逆転を許してしまうのですね。きを引き締めて臨んだ順位戦2戦目もタイブレークで残念ながら敗戦でした。1セット目を6点に押さえて取っただけに勝機もあったように思われますが？

9~12位戦

(ボリビア代表 Ricardo Mnroy 選手 (6), 6, 6 で敗戦)

廣瀬選手

1セット目は得意のドライブサーブ、ドライブゼットサーブで攻めて自分の得意な展開で1, 2, 3(サーブで崩し、リターンを崩し、決める)で取れたのですが、2セット以降は相手の選手がその展開になれてしまい崩すことが出来なかったのと、私のショットのコースを読み切ってポジションをとられ上手くカウンターを合わせられてしまいました。ペースを変えようとロブサーブからの展開もチャレンジしたのですが狙い所のないコートに悩まされたのと、自分のロブサーブの精度が悪く世界レベルではまだまだ通用しないという事を痛感させられました。攻める時の展開の引き出しを増やさないと代表レベルの選手は一旦崩れても試合の中で対応してきてしまうのでトータル3セットの中での勝利を手にするためにより精度の高い様々な展開が要求されますね。

初めて対戦する相手でも1ゲームの中で観察し、対応を変えてくるのはトップレベルの試合ならでの事ですね。

そして、いよいよ個人戦シングルスも最終戦となりますが最後だからと気合が入ったとか、緊張したとか、気持ちの変化はありましたか？

11~12位戦

(コスタリカ代表 Felipe Camacho 選手 (12), 13, 3 で敗戦)

廣瀬選手

そうですね。緊張するとは逆に5試合目にしてやっと完全に緊張が取れて良い精神状態で臨めたと思います。展開はやはりドライブサーブから崩して得点を稼ぎました。この試合、実力的には十分勝てる相手だったのですが相手が審判に抗議すると審判が判定を覆してしまうおかしな審判ででした。外国選手はみな抗議は当たり前という風潮がありますがそれによって判定を変えてしまっただけでは成り立ちません。あまりの審判の理不尽さに切れてしまい最後は集中力ゼロで敗れてしまいました。

(世界選手権においても基本は選手同士で前ゲームの敗者が主審)

個人戦が終了して団体戦に移るわけですが、今回は男子日本チームはベスト8でした。初戦のチリとの対戦は公式スコア発表で廣瀬選手のスコアが『No Show』と表記されていましたがどういう事だったのでしょうか？

廣瀬選手

団体戦初戦は第一ゲーム、チリの第二シードの選手が私に『お前は日本の第一シードか？』と尋ねてきて私が『そうですよ』と答えると私としては試合をしたかったのですが相手選手は体調が万全でない事もありDEF、シングルス第二ゲームで河野選手がチリの代表の第一シードに圧勝、この時点で日本チームの勝利が確定、ダブルスはDEFとして、結果として日本チームは2勝1DEFで勝利でした。

団体戦2戦目にはいよいよ世界の頂点に君臨トッププロを揃えたアメリカチームとの対戦でした。

廣瀬選手の相手はIRTプロランキング1位のRocky Carson選手でしたね。IRT1位という事はまさに世界一といっても過言ではない相手ですがやはり凄かったですか？

(6,6で敗戦)

廣瀬選手

そりゃ、凄かったですね。相手Rocky Carson選手はアメリカチームが日本チームに対して2勝していた為にDEFしても良かったのですが対戦相手の私に『試合がしたいか？』と聞いてくれ、『是非、対戦したい』と伝えたところ快く試合をしてくれました。1ゲーム目は死ぬほど走らされ、あんなに走ったのは生まれて初めてといった感じです。1~2セット共に6点とった中で自分で取ったという点は2~3点位ですね。

様々な技術のスキルが高いのはもちろんですが一番感じたのは『フットワーク』の凄さです。もっともっとSAQトレーニング等を積まなければならないと思います。ゲーム展開の中でトッププロに共通して言えるのが無理な体勢からでも無理やりに打ち込んで攻めて来ることです。シーリングショットを使うのなら一度相手を下げて・・・といった感覚ではなくシーリング以外は返せないような絶妙のコースに打たない限り、全て決められてしまいます。

普段からそういった相手と数多くゲームをしてるトッププロに比べると自分の練習はどうしても甘くなってしまうのでもっともっと厳しい練習の必要を感じました。できればそんな相手と練習したいですね。

改めて、伺いますが世界レベルを体験出来て色々な収穫があったと思います。大会を通じて感じた事をお願いします。

廣瀬選手

初めて世界選手権を体験出来て、今まで知らなかった世界を知った感じです。前回の世界選手権は選考会で敗れてしまったのが本当にいまさらながらに悔やまれます。今はラケットボールがますます楽しく思え、更に練習を頑張ろうと思っています。

アメリカは勿論ですが、各国を代表してくるチームにはほとんどのチームにチームコーチが帯同していて、技術的なアドバイス、試合中のコーチング、フィジカル管理等のサポートしていました。日本チームにはそのような体制がなく、各選手が個人個人ですべて行っていると話したところ、米国のコーチは『アンビリャブル！』と驚いていました。選手が個人のスキルを磨いて行くのは勿論ですがコーチングやサポート体制をもう少し確立していけると現在のトップ4(アメリカ、メキシコ、カナダ、ボリビア)に食い込める可能性も出てくると思います。

世界のトップに食い込めるのを期待しています。最後に今後の抱負をお願いします。

廣瀬選手

抱負の前に世界選手権に参戦するにあたり、たくさんの方から応援いただいた事をこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。

今回の結果は100%満足出来るものではありませんでしたが今出来る事は出し切ってきたつもりです。代表選手というプレッシャーを背負うことも良い経験になりました。更なる練習をつんでトップに近づけるように精進したいと思います。海外でのトッププロとの試合を重ねることも出来る限りチャレンジしようと思いますのでこれからも応援よろしくをお願いします。